

What's up,

OITA!

(どげえかえ、ふるさと大分！)

世界で活躍する県人会員と留学生OB、大分県関係者の皆さま方に、大分の「今」をお伝えします。

《Vol. 53》2017年7月発行

なつかしい我が故郷～大分ふるさと写真館～

【由布市／国東市】



(由布市)
金鱗湖



(由布市)
辻馬車



(国東市)
ケベス祭り



(国東市)
両子寺仁王像

大分県で学ぶ外国人留学生とのコラボレーション

大分県は、人口あたりの留学生数が全国トップクラスであり、約90の国や地域から、3,500人を超える留学生が大分県で学んでいます。せっかく大分に学びにきてくれた留学生の皆さんに活躍してもらうため、大分県では様々な支援を行っており、また留学生のアイデアや活力を地域の活性化につなげていきたいと考えています。

第1回大分県スタディツアー

大分県では、私費で学んでいる外国人留学生を対象とした奨学金制度を設けています。その奨学生を対象に、大分のことをより良く知ってもらうことを目的とした「大分県スタディツアー」を実施しています。

この第1回目として、大分市商工労働観光部観光課のご協力のもと、6月24日に大分市中心部の街歩きを行いました。大分駅を始点とし、府内5番街、遊歩公園、城址公園、中央町商店街等を歩き、大分県立美術館を見学しました。

街歩きを終えた後はワークショップを行い、大分市中心部の魅力やより良くするためのアイデアについて発表しました。



大分駅府内中央口がスタート。駅前にも興味深いものがたくさん！



府内城築城にまつわる人柱の話には、驚きの声があがりました。



ワークショップでは、国別にアイデアを発表しました。

駐日モンゴル国特命全権大使が知事を表敬訪問しました

6月13日、ソドブジャムツ・フレルバートル駐日モンゴル国特命全権大使が退任のあいさつのため来県し、知事を表敬訪問しました。フレルバートル大使は「任務終了後は、新しい立場で大分県とモンゴルの友好を深めていきたい」とあいさつをされ、知事は「大使にはこれまで何度も大分県を訪れていただき、大分県とモンゴルの強い絆を作っていただいた。今後もお力添えをいただきたい。」とし、今後の交流について意見を交わしました。



大分中文学園の開講式が開催されました

大分に在住の中国人の子供たちに中国語を教える「大分中文学園」(黄梅雄園長)の開講式が6月3日、ホルトホール大分で行われました。

大分中文学園は、結婚などで大分に住んでいる中国人の親御さんから「子供が中国語を話せない」などの声を受けて大分華僑華人協会が開設したもので、毎週末、中国語教師をしている保護者らを講師に、大分市と別府市で開かれます。大分県内には約4千人の中国人が住んでおり、中国語のできない二世三世も多くいるということで、全国的にも珍しいこういった取り組みには大きな期待がかけられています。

開講式には受講生の子供や保護者らが参加し、村山富市元首相や何振良中華人民共和国駐福岡総領事らが祝辞を述べました。



中国甘肅民族風土人情写真及びタンカ展が開催されました

大分市のアートギャラリーで5月30日～6月4日、「中国甘肅民族風土人情写真及びタンカ展」が開催され、開会式への出席のため、甘肅省ネットワーク文化協会の梁和平会長(省委インターネット・情報室主任)を団長とする訪問団が来県しました。

甘肅省はシルクロードが縦断し、雄大な自然景観と歴史文化遺産に富み、会場には砂漠や雪山、草原などの美しい写真や、チベット族の仏教画「タンカ」が展示されました。

主催の九州ふるさと創生国際交流促進協会は2014年から甘肅省の教育機関などと交流を続けており、今展示会の開催が実現したものです。





めじろん海外特派員レポート

大分県は日本の中でもっとも素敵な自然を有しています。それを感じる一番良い方法はサイクリングです。大分県のAJET(JETプログラム参加者の会)は20年間にわたり、県内のいろいろなところを巡るサイクリングライドを企画しています。今年の第20回チャリティーサイクリングライド「Let it Fly!/飛べ」は5月28日・29日に行われました。大分城址公園から始まって、別府市と日出町の綺麗な緑の山と瑠璃色の海の道を通り、国東の梅園の里を目指しました。山登りの道路はきつかったですが、日本赤十字社の平成28年熊本地震災害義援金のために募金しているので、最後まで頑張りました！

今年、60人以上のサイクリストがボランティアで参加して、このチャリティーサイクリングライドの歴史で一番大きい回となりました。8つの国から、そして四国や島根県など、遠方から駆けつけてくれる参加者もいました。この行事はたくさん新しい友達もできる、素晴らしいチャリティーです。来年あなたも参加してみませんか？よろしくお願ひします！

【めじろん海外特派員 Casey Kasper様より】



温泉コラム 第1回 別府は世界2位の温泉地か？



世界温泉地サミットの開催に向けて、「世界の中でのおんせん県」というテーマで掲載していきます！

大分県は日本一の温泉県で、別府が日本一の温泉地というのは疑いのないところですが、世界のなかでは、アメリカのイエローストーン国立公園が1位で、2位が別府温泉とよく言われていますし、私たちもそう言って宣伝してきました。はたしてそれは事実でしょうか。

イエローストーンには地球上の温泉の50%が湧いているそうで、これは世界一に間違いないのでしょう。ただ、そのエリアは8,983km²に及び大分県の1.4倍の広さです。しかも一部の野天湯をのぞき、人が入れる温泉はありません。こういう大自然のままに湧いている温泉を別府のような人が管理する「温泉都市」と比べるのはどうなのでしょう。

イエローストーンと同列で天然の温泉をすべて比べれば別府より湯量の多いところは探せばまだ他にあるかもしれません。調べてみると、例えば、オーストラリアの砂漠の真ん中にダルハウジースプリングスという38~43°Cの温泉が湧く湖沼群があり、毎分1,000キロリットルくらい湧いているらしいです。そうすると、毎分87キロリットルの別府温泉はもう世界で2位とは言えなくなってしまいます。

ですから、別府が世界で2番目の温泉というのはあまり言わずに、「世界一の温泉都市です」と自慢した方がいいと思うのです。

【大分県庁屈指の温泉名人 直山たかし】



Pick Up! 大分の「今」

県内の出来事（6月）

News

【6月4日（日）】 第65回くじゅう山開き

第65回のくじゅう山開きが4日、久住山で行われました。山頂で神事があり、登山者には記念品のペナントが配られ、くじゅう連山はいよいよベストシーズンを迎えました。青空が広がる絶好の登山日和の中、登山者は五分咲きのミヤマキリシマの美しさに目を奪われていました。



News

【6月14日（水）】 祖母・傾・大崩 エコパーク登録

国連教育科学文化機関（ユネスコ）は14日、大分県と宮崎県の両県にまたがる山岳地帯「祖母・傾・大崩」を「エコパーク」に登録しました。大分県内での登録は初めてであり、国内の登録は計9地域となりました。「エコパーク」は、環境保全だけが目的ではなく、自然と人の共生を図るという視点に重点をおくユネスコの自然保護事業です。

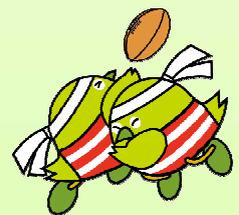


「祖母・傾・大崩」は大分県佐伯、竹田、豊後大野市の3市と宮崎県延岡、高千穂、日之影の3市町にまたがる24万3672ヘクタールが対象で、九州最高峰級の山々にニホンカモシカやソボサンショウウオなどの希少種を含めた多様な動植物が見られます。エコパーク登録を契機に、祖母山への信仰や神楽等の民俗芸能を次世代に継承することを目指すということです。

News

【6月18日（日）】 だろ田ラグビー大会インおおいだ

大分市横尾にて18日、田植え前の泥田を舞台にして「だろ田ラグビー大会イン大分」が開催されました。児童と保護者、大学生ら約100人が参加し、泥を飛び散らしながら熱戦を繰り広げました。参加者が泥に足を取られながらも豪快なトライを決める姿に、大きな歓声があがっていました。



News

【6月20日（火）】 佐伯市で震度5強の地震発生

20日午後11時27分頃、豊後水道を震源とする地震が発生し、佐伯市鶴見で震度5強（マグニチュード5.0）の地震を観測しました。熊本、宮崎県で震度4となるなど九州、四国、中国地方の広い範囲で揺れを観測しました。幸い、大きな被害は確認されていません。

なお、大分県災害対策本部が設置された直後、国際政策課に「災害時多言語情報センター」が設置され、英語、中国語、韓国語で災害情報を発信しました。

From our Reporters



県の国際交流員等が、旬なOITA情報をお届けします。



シェリダン・ミキシック
(Sheridan McKisick)
県国際交流員
米国
pu1014001@pref.oita.jp

大分県で一番好きなのは日田市ですが、今月になるまで中津江村の名前は聞いたことがありませんでした。でも、中津江村は2つの大事な魅力があることを知りました。一つは、中津江村は昔に金山があったこと、もう一つは、2002年のサッカーワールドカップ開催からカメルーンと深い交流があることです。

中津江村の道の駅鯛生金山でこの両方について学んできました。カメルーン料理の弁当を食べてカメルーンのサッカー選手と一緒に写真を撮りました。その後金山を見学しました。1972年以後金山が閉山されましたが、金山は博物館になっていて、昔の状況を再現するマネキン等を見ることができます。とても面白い経験でした。



金 眞雅
(Kim Jina)
県国際交流員
韓国
pu101502@pref.oita.jp

中津は仕事のために訪れたことはありますが、観光地を巡るのは初めてです。良い天気にも恵まれた今回は中津市役所の職員の方と国際交流員、青の洞門の観光案内所の方とガイドの方に案内していただき、中津の有名観光地を堪能してきました！

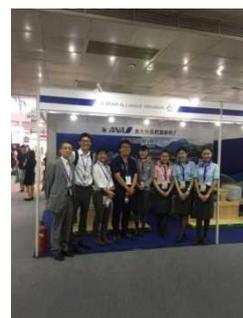
黒田官兵衛が築城した中津城の最上階からの眺めは開放感抜群で、心地よい風も吹いて気持ち良かったです。次に訪れた青の洞門も実際に見てみると手で掘ったとは思えない素晴らしいトンネルで、川の向かいから見る青の洞門と断崖絶壁は絶景でした。また、一番楽しみにしていた羅漢寺のリフトは想像していたより急斜面でぞくぞくしましたし、岩壁を背にした羅漢寺もただならぬ雰囲気を感じられました。中津といえば欠かせない中津唐揚げもジューシーでとてもおいしかったです！



張 鵬
(Zhang Peng)
県国際交流員
中国
Pu1014006@pref.oita.jp

北京で2017年グリーンエキスポに出展協力のため、1か月ぶりに中国に帰国しました。日本の大手航空会社ANAと一緒にブースを出して、大分県の温泉と観光地を中国のお客さんにPRしました。宣伝活動として、お客さんに別府の足湯を体験させたり、先端映像技術を用いて湯布院をはじめ県内の有名な観光地でロケーションしたVRをご覧いただいたりして、温泉県大分の魅力を中国でアピールしました。

はじめてCAさんたちと一緒に働きましたが、いつも笑顔で元気いっぱい姿を拝見し、日本式のサービス意識をしみじみと感じました。やや疲れた出張でしたが、いろいろ思い出を作りました。海外の皆さん、ANAに乗って大分の温泉に行きませんか。



～編集後記～

外国人留学生20名と面談しました。皆、大分に来てよかった、大分の自然や食、人の素晴らしさ、出来たら大分に残って就職したいなど語ってくれました。高度人材の卵である外国人留学生は地域社会の優れた担い手としてのポテンシャルを有しています。県としても、留学生が大分のいろいろな場所や人たちと出会い、第2のふるさと「大分」をさらに好きになってもらえるよう取り組んでまいりますので、地域や企業など関係の皆様のご協力よろしくお願いします。

(国際政策課長 徳野 満)

話題提供のお願い！

県人会の活動(懇親会等)や留学生OBの近況など、世界中の大分県関係者に紹介したい話題をお寄せください！

(様式は任意です)

【記事提供/お問い合わせ先】国際政策課 担当:小野

【Mail】 a10140@pref.oita.lg.jp

バックナンバーはこちら

<http://www.pref.oita.jp/soshiki/10140/whatsupoita.html>